

産地戦略

実施期間 令和4～6年度

実施主体 県央地域かんしょグリーン栽培体系転換協議会
都道府県 茨城県
対象地域 笠間市、水戸市、那珂市
対象品目 かんしょ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	● 温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

かんしょは、焼き芋や干し芋等の加工を中心に、国内外で需要が拡大しており、規模拡大する経営体や新規参入する企業等が増加している。また、新規参入者は急激に規模拡大する傾向にあり、作業の省力化と環境負荷低減が求められている。

そこで、生分解性マルチ及び土壌診断結果に基づく適正施肥や堆肥施用により化学肥料の使用量を低減し、省力化技術と環境にやさしい栽培技術の導入を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		挿苗		害虫防除			収穫		耕耘		土づくり	施肥	
		マルチ展開					マルチ除去						
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		挿苗		害虫防除			収穫		耕耘		土づくり	施肥	
		マルチ展開											
技術名											堆肥散布	土壌診断	

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	20	▶ 30	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 20	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	17	▶ 20	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 20	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料 窒素成分 使用量（kg/10a）	3	▶ 1	
省力	生分解性マルチによるマルチ除去・耕起時間（時間/10a）	6	▶ 0.3	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培マニュアルのホームページでの公開や、栽培マニュアルを基にした栽培講習会の開催等により、グリーンな栽培体系の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	実証農業者	茨城県 （普及組織：県央農林事務所 経営・普及部門、笠間地域農業 改良普及センター）		
役割	技術の検証 （化学肥料使用量、作業時間 記録等） 技術の導入拡大	技術の検証・データの分析 事業実施地域でのグリーンな栽 培体系の普及 生分解性マルチの利用拡大推進		